

2023 年度 学校自己点検・自己評価内容分析表

評価項目	学校自己評価内容	2023 平均 点数	2022 平均 点数	学校関係者評価委員による評価内容
I 教育 理念 ・ 教育 目的 ・ 教育 目標	<p>教育理念、教育目的、教育目標にあたる期待する卒業生像（ディプロマポリシー）に対しては、2022年度にカリキュラムが改正され、各教員の意識が変わったと感じている。教育計画や授業計画の中に期待する卒業生像を意識した言葉を使用したり、授業内容にも学生が教育目標を意識できるように関連した言葉を記載したりしている。期待する卒業生像を目指す教育方針が各教員間で統一されてきていると考えられる。</p> <p>2019年度の結果と比較すると、2.2→2.9に平均点数が上昇している。これは、カリキュラム改正にあたり、教員間で十分に話し合い、教育方針を共有出来たことが大きいと考えられる。</p> <p>また、教育理念については、ホームページのトップ画面に「虹を追う」という文を掲載している。在校生や受験生が目にするが多く、学校説明会でも虹を追うとはどういう意味かを説明し、教育理念や教育目的の説明ができるようになった。</p> <p>本校の使命と本校が目指す看護師教育の実現を目指し、今後も教員間で話し合いながら運営していく。</p>	2.8	2.9	<p>○期待する卒業生像に対する評価が向上していることが素晴らしい。カリキュラム改正にあたって、地道に共通理解を図りつつ進めることができたことが当事者意識を高め、実践意欲を高めたためと思われる。</p> <p>○教育理念にある「虹を追う」からは会津最高の医療を求める学生・教員の心の有り様が見え、心が打たれる。きっと学生・教員一同が一丸となうて努力することであろう。また、期待する卒業生像に、虹を追い求め歩んでいる人、と具体化していることも共感できる。今後も学生を取り込み教員一丸となって具現化に努めてほしい。</p> <p>○教育理念・教育目的を伝えるだけでなく、その意味をホームページの画面で説明することにより、学生たちへの意識づけになったようだ。良い結果だと思う。</p>

2023 年度 学校自己点検・自己評価内容分析表

			<p>○カリキュラムの改正を行ったことによる相乗効果で、良い結果が出ている。変化の時に一丸となって進めることが大切だと思う。</p> <p>○「虹を追う」のフレーズは印象的で、その意味を確認するのに何度かホームページをみた。ホームページは学生の笑顔があふれていてとても良い。いろいろな情報がとれ、保護者にとっても子どもの様子が確認できて嬉しい。</p> <p>○ホームページが充実していてよくみている。家族や周囲の人にも勧めている。こういうところに入りたいと思わせるようなホームページになっていると感じる。また、学生が地域の方や患者さんなど、いろいろな方々とかかわりから成長している様子がわかるホームページだと思う。</p>
--	--	--	--

2023 年度 学校自己点検・自己評価内容分析表

<p>II 教 育 課 程 経 営</p>	<p>〈教育課程実践者の教育課程に対する理解〉、〈科目、単元構成〉、〈教育計画〉〈教育課程評価の体系〉については、1、でも述べたように教員間で話し合いながらすすめている。教育計画の内容が期待する卒業生像に則していないなど、不足点が見つかれば修正するなど、カリキュラム評価は常に実施しているため、教員の意識は高くなっていると感じる。</p> <p>しかし、〈教員の教育・研究活動の充実〉、〈学生の看護実践体験の保障〉については、常に評価が低いままである。特に〈教員の教育・研究活動の充実〉の [2 授業準備の時間をとれる体制] や [3・4 自己研鑽のシステム・相互研鑽のシステム] についての評価はいつも低く、管理者の采配の不足が浮き彫りとなっている。教員の教育力を上げられるよう環境を整えることが大切であるため、2024 年度は業務の改善を検討をしていきたいと考えている。</p> <p>〈学生の看護実践体験の保障〉では、[1 臨地実習施設は教育理念・教育目的、教育目標、期待する卒業生像を理解できている] については評価は低いですが、現在、実習指導者と連携し、カリキュラムについて啓蒙中である。以前より、臨地の指導者との連携が密になってきているため、今後は臨地実習指導者の理解も広がっていくと考えている。</p> <p>今年度も学生の演習に模擬患者役として臨地実習指導者に参加してもらった。昨年同様に臨地実習指導者からは、学校で行なっている教育の内容がわかり学生さんの考えていることが少しわかった、新人教育にも役立つ、等の意見をもらえた。また、教員も臨地と乖離している部分が見えて勉強になったとの意見があり、お互いの意識向上につながっていると感じている。今後もお互いの教育観が向上できるような取り組みを継続していく必要がある。</p>	<p>2.6</p>	<p>2.7</p>	<p>○どの職場においても、研修や研究活動において時間の制約などがあり、十分に深めることができないことが多いと思われる。研修内容の焦点化を図ったり、短期にまとめたり工夫していく必要があるだろう。</p> <p>○以前より臨地実習指導者との連携が密になっていることは素晴らしい。地道な努力が実を結びつつあるのだと思う。今後、臨地実習指導者との共通理解の場の設定も考えられる。多忙な中での活動であると思うが努力してほしい。</p> <p>○実習のカリキュラム変更等で、教員の方々が話し合う時間を設けていることが伺える。臨地実習指導者との連携も上手くいっているようなので今後に期待したいと思う。</p> <p>○私も模擬患者役として演習に参加した。学生と会話ができ、実習で伝えきれてないことは何かなど気づくこともできた。また、学生の特性も知ることができ、次年度の実習に向けてとてもよかった。この取り組みは継続させてほしいと思う。</p>
---	---	------------	------------	---

2023 年度 学校自己点検・自己評価内容分析表

			<p>○働き方改革があり、時間内に自己研鑽の時間を確保するのは本当に難しいと思う。事業所で行っているのは、竹田カレンダーでの運営ではなく、カレンダー通りの運営にしている。そうすると、竹田カレンダーとのずれはなるべく自己研鑽の時間にするようにしている。何らかの工夫をしていかないとなかなか困難だと感じる。</p> <p>○いろいろな取り組みを工夫されていると感じ、学生は幸せだと思う。</p> <p>○〈教員の教育・研究活動の充実〉に関しては、時間を取るのが難しいのはわかるが、研究は大変重要な取り組みであるため、推奨できるような体制が必要だ。また、授業準備の時間は、時間内に準備できることが大切である。この日は授業準備の時間とそれぞれ決め、束縛しないよう環境を整えていけるとよい。</p>
--	--	--	--

2023 年度 学校自己点検・自己評価内容分析表

<p>Ⅲ 教 授 ・ 学 習 ・ 評 価 過 程</p>	<p>〈授業内容〉の〔3 授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている〕について評価が低いですが、これに関しては、カリキュラム評価を実施しながら修正をしている。その中で、科目間の内容の重複や整合性等を確認しているところである。また、評価についても、学生が納得のいく評価となるよう、教員間で話し合いを重ねている状況である。カリキュラムの変更から2年が経過し、来年度はカリキュラム全体の見直しに取り組む予定で進めている。</p>	<p>2.7</p>	<p>2.6</p>	<p>○まず、具体的な科目間の重複や整合性を調査確認し、整理することであろう。その上でカリキュラムの改善を図っていくことが大切と思われる。</p> <p>○新しいカリキュラムに変更になりもう2年経つんですね。次年度は課題がはっきり見えてくると思う。頑張ってください。</p> <p>○カリキュラム改正で内容の見直しを継続して取り組み続けているのは良いことだと思う。重複が見られたらそれを外すと、他に時間数を持っていくのか？</p> <p>「質問に対し返答」 ほかに時間数は持っていけないので、科目内で深めたい内容を入れたりする。重複しての教授が必要であると判断することもある。</p> <p>○今の返答を聞いて安心した。重複して教授が必要な項目もある。常に検討することは必要である。</p>
--	--	------------	------------	---

2023 年度 学校自己点検・自己評価内容分析表

<p>IV 経 営 ・ 管 理 過 程</p>	<p>〈組織体制〉は、昨年同様1・2・3の[意思決定システムが明確になっている][意思決定システムは組織構成員の意思を反映できるように整えられている][意思決定システムは決定事項が周知できるように整えられている][教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある]の評価がそれぞれ低い。管理者の力不足であり、教職員一人ひとりと話し合いながら、それぞれの考えや要望を確認し、より良い方法で学校運営が実現できることを目指していく必要がある。</p>	<p>2.5</p>	<p>2.8</p>	<p>○評価が低いと述べているが、少しずつ向上しているように思うところもある。教職員一人ひとり、教職員グループ、全職員等の話し合いの場を活用していくことが大切と思われる。</p> <p>○教育理念や目的を達成するため、教職員一人ひとりの意見・要望を確認しまとめ上げるのは大事なことだと思うが、先生方が同じ方向を向いて、より良い組織体制ができることを願っている。</p> <p>○カリキュラム改正という変化は、いろいろな方面に良い影響を及ぼしているように感じる。今後評価は良くなっていくと思う。</p> <p>○管理者の力不足という言葉が引っかかる。管理者一人が背負っているのではなく、教員一人ひとりのよいところを伸ばし、協力していくことで良い方向に向かうのではないか。</p>
<p>V 入 学</p>	<p>入学については、「入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）」に沿った入学試験の方法を検討したり、受験生を減らさない方策を検討している。本校ではどのような人材を求めているかを明確に示し、それに沿った入学試験を実施、入学した学生の成長を見ていく過程で評価ができると考えている。</p>	<p>2.7</p>	<p>2.8</p>	<p>○アドミッションポリシーを明確に出しているところがよい。また、その内容も分かりやすい表現である。学校の特色などわかりやすく、魅力的に構成されており好ましい。</p>

2023 年度 学校自己点検・自己評価内容分析表

				<p>○学生はそれぞれの「個性」を持っている。それらを尊重しながら目標達成することは大変だと思うが、見守りながら、修正しながら成長して行ってほしいと思う。</p> <p>○大学卒業者が半数以上になると調べた。専門学校はどうなるのか不安になる。今の傾向を考えると、専門学校に入学して今後どうスキルアップできるかが重要なのではないか。母体の病院もあるため、入学し、病院に就職するとどのようにスキルアップできるのかをもっと広めていくべきだと思う。Z 世代は合理性を求めているらしいので、入学後はスキルアップが約束されているような流れを作っていけばよいのか。今は、生涯学習の時代。他の病院等に移る場合もスキルアップのためと喜んで送り出さなければならないと先日学習したが、それができるかどうか…。でもそうしなければならない時代のようなのだ。</p>
VI 卒業 ・ 就業	「期待する卒業生像」に関する評価は毎年調査している。現カリキュラムは2023年度の卒業生までとなる。卒業を迎える学生に自らの成長を問うと、最も多かったのは、「コミュニケーション能力の向上」であった。次に多かったのは、「自主性と健康管理能力の向上」であった。他に、「人を想う気持ち」、「人に寄り添う姿勢」、「患者の気持ちを察する力」、「看護に対する思いの強さ」、「チーム力の大切さ」、など看護師として必要な能力を挙げ、自らの成長を振り返っていた。	2.7	2.5	○期待する卒業生像を明確にし、それに向かって学習する学生、明確な卒業生像を持って指導にあたる教員が、左記の成長を自覚できる学生にまで成長させているのであろう。素晴らしいことである。

2023 年度 学校自己点検・自己評価内容分析表

<p>・進学</p>	<p>旧カリキュラムの期待する卒業生像に則した成長をしていると感じられた。 本校は竹田総合病院へ7~8割の卒業生が就職している。近年の若者の働く傾向として、自己のキャリアを評価され、望む場所で働きたいという思いがあり、離職する20代が多い。就職した卒業生が悩みを抱えたまま仕事をしていることも多く、何か学校としてできることはないかと考え、「ホームカミングデー」を実施した。2023年3月に卒業した人たちに声をかけ、学校に帰ってきて、旧友たちと話し合う機会を設けた。竹田総合病院以外に就職した人も参加するなど、20人の参加があった。来年もやってほしい、もっと早くやってほしかった、等の声があり、卒業生の生の声が聞けた。今後も在校生だけでなく、卒業した方々へも学校ができることを探して力になれることを実施していきたいと考えている。</p>		<p>○ホームカミングデーの実施の成果が記されていた。素晴らしい企画であり、実践であると思う。学校教育の中においては同級会・同窓会などの形で先輩が後輩を支えたり、同輩同志の情報交換の場になっている。</p> <p>○就職するとなかなか同期と会って話をするのがないはず。学校側が主催する「ホームカミングデー」と称して集まる機会を設けたことで、病院の中では話せない悩みや相談ができると思う。メンタルの部分で大きな役割を果たすのではないかと。これからもずっと続けてほしい取り組みである。</p> <p>○自分が卒業したばかりの時は、何かと同級会をして、同級生から得る者が多かった。それぞれの情報を聞いたりしながら乗り切ってきた。社会人学生がいたのもまたよかった。同級生が集まる機会を学校がおぜん立てする時代なのか？</p> <p>「上記についての返答」 コロナ時代に育った学生は、集まり方を知らない。そこを学校が助けて、今後は自分たちでできるようになれば良いと考えている。</p>
------------	--	--	--

2023 年度 学校自己点検・自己評価内容分析表

				○「人に寄り添う姿勢」「患者の気持ちを察する力」「チーム力の大切さ」など、看護師に必要な能力に気づき、成長した学生の姿が素晴らしい。教育の賜物である。
VII 地 域 社 会	<p>地域社会との連携については、ボランティア活動が授業単位になり、学生は、地域でボランティアを探して活動してきた。鶴ヶ城マラソンは2年目の参加となり、今年度は健康教室を実施することもできた。少しずつでも地域の方のお手伝いができるような活動を今後も実現していきたいと考えている。</p> <p>また、今年度も老年看護学概論の講義に、地域で活動されている高齢者サークルの方々に参加いただき、元気な高齢者の姿をみせていただいた。学生はもちろん、参加いただいた方々も、「若い人と話ができ楽しかった」と感想をいただいた。この講義は地域の方々との交流が図れてとても良い経験となっており、継続していく予定である。</p>	2.5	2.4	<p>○鶴ヶ城マラソンのボランティア活動など素晴らしい取り組みであると思う。市民の認知度も高まると思う。</p> <p>○高齢者サークルとの交流は学生の高齢者理解にも寄与するものであろう。</p> <p>○医療現場とは違う視点から、健康その他について学ぶことができとてもよいことだと思う。いろいろな背景などを踏まえた上で、学びえる情報や知識は、のちに役立つと思う。ぜひ今後も続けてください。</p> <p>○学生さんにはもっと地域に出てきてほしい。うちの事業所で買い物ツアーのボランティアをお願いした。今は孫との交流もあまりない人が多いため、学生と利用者との会話がとても自然で良かった。お互いに嬉しそうに見えた。若い人は自然と高齢者を明るくしてくれる力がある。</p>

2023 年度 学校自己点検・自己評価内容分析表

				<p>○核家族が多いので、若い人と交流することは高齢者を元気にする。若いエネルギーは本当に素晴らしいと思う。</p>
VIII 研 究	<p>研究活動は教育の発展のために必要な活動である。今年度は、研究担当者を3名決め、研究活動を実践した。今年度の「日本看護学校協議会学会」で発表をしてきた。同じメンバーで、来年度に向けた研究を継続している。</p> <p>今後も研究活動が継続していけるよう、教員それぞれが研究活動のできる環境を整えていく必要があると感じている。</p>	2.2	2.2	<p>○学会等への参加を通し、刺激を受けたり、交流を深めたりすることは大切なことであると思う。多忙な中での活動に敬意を表します。徐々に評価点は上がると思われる。</p> <p>○コロナウイルス感染症が5類になったことで研修や学会発表など、活動の場が以前のようにできるようになった。今後は新たな課題も見つかると思う。情報の共有をしながら頑張っていってほしい。</p> <p>○研究は大変だが、そこから得られることは大変多い。今後の発展にもつながる。また、教員が研究活動をする姿は学生の見本となると思う。</p> <p>○同じメンバーではなく、交代で研究していくといろいろな人が研究できるようになると思う。</p>